

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人 真奉会
事業所名	グループホーム あもり
訪問調査日	平成20年5月21日
評価確定日	平成20年6月19日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4676100243
法人名	社会福祉法人 真奉会
事業所名	グループホーム あもり
所在地	霧島市隼人町内2075番地2 (電話) 0995-43-8700
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年5月21日

【情報提供票より】(20年5月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 16.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000	その他の経費(月額)	9,000	円		
敷金	有() 円	(無)				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無			
食材料費	朝食	200	円	昼食	400	円
	夕食	400	円	おやつ	100	円
	または1日当たり		1,100 円			

(4) 利用者の概要(5月6日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.8歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加治木温泉病院・加治木記念病院・徳永医院・井出歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然に恵まれた広い敷地に、ゆったりとした間隔で建てられた2棟のホームである。地区の公民館長や民生委員の理解と協力により、地域の方々との交流も盛んである。また、協力医療機関の医師による日常的な助言や訪問診療により医療面の支援が充実しており、利用者やご家族にとつて大いに安心できる体制となっている。お花見やちまき作りなど季節の行事も多く、利用者が指南役となる場面も見られる。職員はきめ細かな対応を心がけており、利用者の穏やかな表情からは良好な信頼関係がうかがえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあいについては、運営推進会議で公民館長や民生委員に現状を話し、ホームの行事への参加や非常時の応援を、有線放送を使って呼びかけていただけるように依頼している。災害対策については、不足していた必要物品を補充している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員がそれぞれに評価を行い、管理者がまとめ上げている。また外部評価の改善課題については、全員で意義を理解しながら即時に話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の状況およびホームの活動内容、今後の行事計画等を報告し、参加者から質問や意見があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議へのご家族の参加や年1回の家族会で、意見や要望を表出できる機会を設けている。「あもりだより」においても、意見や要望を気軽に伝えてもらえるように呼びかけている。重要事項説明書では、苦情・相談窓口をフローチャートを使ってわかりやすく紹介しており、苦情箱の設置場所も説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人が自治会に加入しており、地域の有線放送で行事等の情報を得るとともに、ホームの催しへの参加を呼びかけている。初午祭では、馬を招いて地域の方々が利用者と一緒に馬踊りを見ることが出来るように、場所の提供を行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初職員全員で考えた理念に、地域密着型としての理念を付け加え、地域との繋がりを大切にしながらホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の入職時にホームの理念について説明し、職員会議の中で、理念に基づいた具体的なケアについて話し合いながら日々のケアに取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人が自治会に加入しており、地域の有線放送で行事等の情報を得るとともに、ホームの催しへの参加を呼びかけている。初午祭では、馬を招いて地域の方々を利用者と一緒に馬踊りを見ることが出来るように、場所の提供を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員がそれぞれに評価を行い、管理者がまとめ上げている。また外部評価の改善課題については、全員で意義を理解しながら即時に話し合い、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、利用者の状況およびホームの活動内容、今後の行事計画等を報告し、参加者から質問や意見があれば詳細を説明するなど、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。ホームの評価への取り組みについては、今のところ報告されていない。	○	運営推進会議の中で、自己評価や外部評価への取り組み状況について報告するとともに、ご家族に対して、運営推進会議の内容を報告していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、日頃から現状報告や相談を密に行っているが、今のところ、ホームを訪れて入居者の暮らしぶりを見ていただく機会はない。	○	市の担当者へ運営推進会議への参加呼びかけとともに、会議以外でもホームへ立ち寄りてもらい意見を聞くなどして、サービス向上に共に取り組む関係を築いていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書と通帳(写)を送付する際、「あもりだより」にホームの活動状況や職員の異動、行事計画、利用者の暮らしぶりの写真を同封して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族の参加や年1回の家族会で、意見や要望を表出できる機会を設けている。「あもりだより」においても、意見や要望を気軽に伝えてもらえるように呼びかけている。重要事項説明書では、苦情・相談窓口をフローチャートを使ってわかりやすく紹介しており、苦情箱の設置場所も説明しているが、今のところ利用は少ない。	○	苦情箱を苦情のみならず、意見や要望・相談を気軽に表出してもらえるように呼びかけるとともに、さらに利用しやすいように、設置場所を工夫することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、離職が最小限になるように努力している。職員の交代があった場合も、新しい職員が利用者や馴染みまで、個別ケアの具体的な方法を指導したり、しばらくは馴染みの職員と一緒にケアにあたるなどして、ダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招くなどして月1回勉強会を開き、外部研修には、なるべく多くの職員が参加できるように交替で参加し、ホームで報告会を行って全職員が知識を共有できるようにしている。年間研修計画や、管理者・職員を段階に応じて育成するための計画等は今のところ策定されていない。	○	全体としての研修計画とともに、職員の立場や経験に応じた、段階的な育成計画の策定に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、「認知症セミナー2008」に向けての準備活動を通して、他ホームの職員と交流を図るなど、サービスの質向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居については案内書に明記してあるが、実際に見学していただき、一緒にお茶飲みや食事したりしている。職員が自宅や病院を訪問して面談し、徐々に馴染めるように工夫することもある。入居後も、ご家族に頻繁に面会してもらったり、希望があれば外出を支援しながら安心してできるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の経験や知識を、本人やご家族との日々の会話から聞きだしたり、日常生活の中から発見している。野菜作りや季節の料理等に関する知恵を教えもらう機会や場面を、より多く設けることができるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や身近な方からの情報を得るとともに、散歩の同行やお茶を一緒に飲みながらスキンシップを重視し、思いや意向を表出しやすい雰囲気作りに努めている。行動や言葉から思いをくみ取り、日々の係りの中でケアに反映できるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、主治医および職員出席の担当者会議を開催し、それぞれの意見や意向を出し合いながら、介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族に会議出席を依頼したり、出席できない場合は電話で要望を聴取している。居宅介護支援経過記録の内容を取り入れて、主治医と相談しながら、状態の変化時や定期的な介護計画の検討と見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	福祉車両を利用して、通院や帰宅・墓参り等の外出支援を行っている。協力医療機関の医師がほぼ毎日訪問し、診療や相談を密に行っており、連携を取りながら健康面での支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医となっており、ご家族同行の受診が困難な場合は職員が同行し、受診結果や検査結果をご家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用前に、重度化や終末期に向けたホームの方針を説明している。病状が悪化するなどの変化がある場合はその都度、ご家族や主治医、看護師を交えて話し合いを行い、職員も含めて方針を共有しており、看取り介護に関する医療処置の同意書も交わしている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの尊厳に配慮した声かけ・対応に心がけており、新入職者への指導も行い、誓約書を交わしている。経過記録等の個人情報の取り扱いについては、適切に行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの時間にとらわれずに、今までの生活リズムを尊重して、一人ひとりの状態や希望に合わせた食事や入浴、就寝や起床ができるように柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を伺い、時には近所の方からいただいた季節の食材を取り入れて、一緒に料理の下ごしらえや準備をしながら、穏やかな雰囲気の中で食事が楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日が決まっているが、季節や利用者の状態、希望に応じて、いつでも入浴できるようになっており、入浴剤を使用しながら、ゆっくりと入浴が楽しめるように工夫している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができることや得意なことを把握し、味噌作りやあくまき作り、蕎麦打ちなど、季節の行事に合わせて、力量に応じた役割が発揮できる機会を作っている。また、地区のグループホームのイベントで、職員と一緒に踊りを披露する計画もあり、日々の生活が生きがいあるものになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物に職員と一緒に出かけたり、季節毎に行事計画を立てて戸外へ出る機会を作っている。また、ご家族との外出や利用者の希望による墓参り、ドライブ、外食等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、センサーを活用して外出を見落とさないように見守りの体制ができています。単独で外出された場合も想定して、毎朝着衣のチェックを行って職員間で情報を共有しており、日頃から近隣の方々にも協力をお願いするなどして、良好な関係づくりに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の火災訓練を、消防署・公民館長・民生委員の協力を得て、通報・連絡・避難などの具体的な訓練を昼間・夜間を想定して実施している。有線放送を活用しながら、近隣住民に非常時の応援などの協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士から、献立や栄養バランスについてアドバイスを受けており、個々の食事摂取量を観察して記載に残し適切に管理している。水分摂取量については、大まかな目安を立てて摂取を促しているが、個別の記録は作成されていない。	○	利用者の状態や気候に合わせた水分摂取の支援を行い、個別の水分摂取量確認を記録に残すなどして、職員が継続して状態を把握できるように工夫していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたダイニングの一角には和室のコーナーが設けてあり、使い勝手の良い造りとなっている。窓から望める庭や畑の風景からは季節の移ろいが間近に感じられ、心地よく過ごせる配慮がなされている。玄関先に椅子が置かれ、庭にはベンチも設けられており、自然を五感で感じながらゆったりと過ごせる工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや家具・位牌・ラジカセ・植木鉢など、使い慣れた馴染みの物を持ってきていただき、状態に応じて家具の配置換えや補整を行うなどしながら、安全で快適な思い思いの居室空間が作れるように配慮されている。		